

令和 7 年度 食育推進状況調査結果報告

1 調査の目的

- ・ 食育推進ネットワーク加入施設で実施された食育活動について把握するとともに、今後の食育活動の方針を確認する資料とする。

2 調査の内容

(1) 対象 熊本市こどもの食育推進ネットワーク加入施設 314 か所

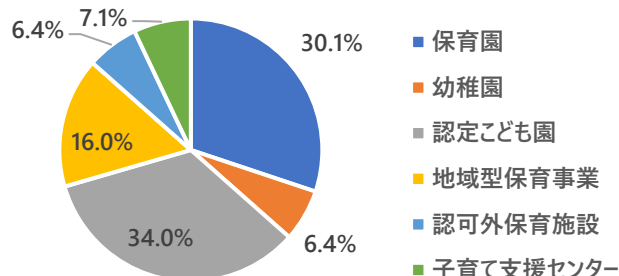
(保育所 85 か所、幼稚園 23 か所、認定こども園 104 か所、地域型保育事業 56 か所、
認可外保育施設 28 か所、子育て支援センター18 か所)

(2) 実施期間 令和 8 年（2026 年）3 月 3 日から 3 月 31 日まで

(3) 実施方法 インターネットを用いたアンケート調査

(4) 回収率 156 件（回収率：49.7%）

(5) 回答属性

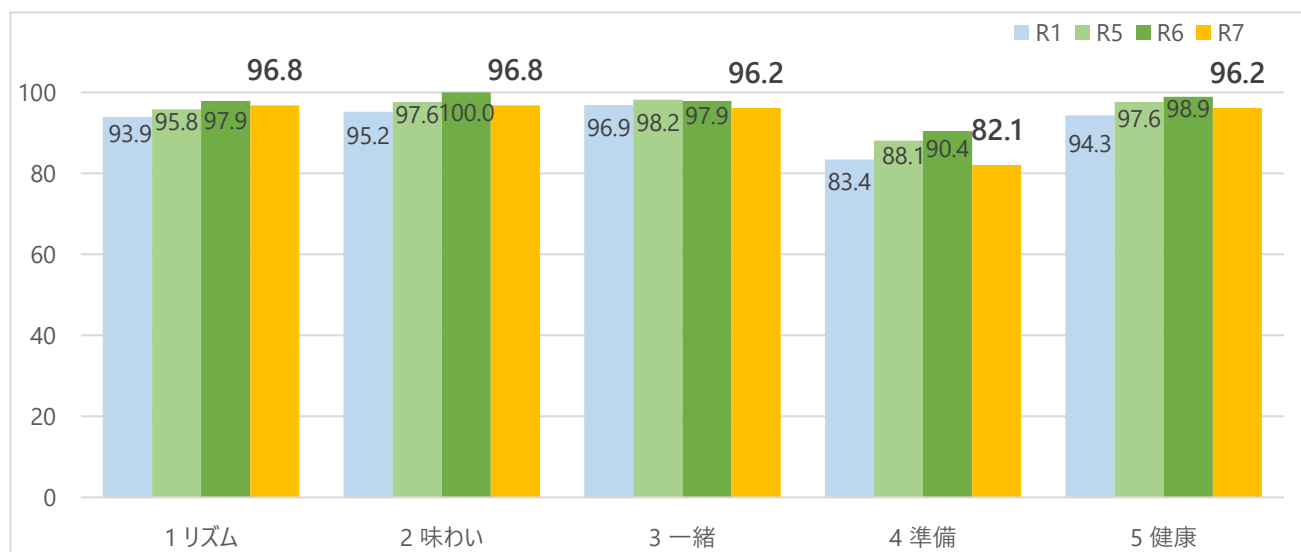


3 調査結果

(1) 「楽しく食べるこどもに」に成長していくための、「具体的な 5 つの目標」の取組状況

- ①食事のリズムがもてる ②食事を味わって食べる ③一緒に食べたい人がいる
④食事づくりや準備にかかわる ⑤食生活や健康に主体的にかかわる

- ・ ①、②、③、⑤については、96%以上の施設で取り組まれていた。全体として、コロナ禍以前の令和元年度の割合に戻っている状況が窺え、各施設にて積極的に取り組みを継続した結果と考える。



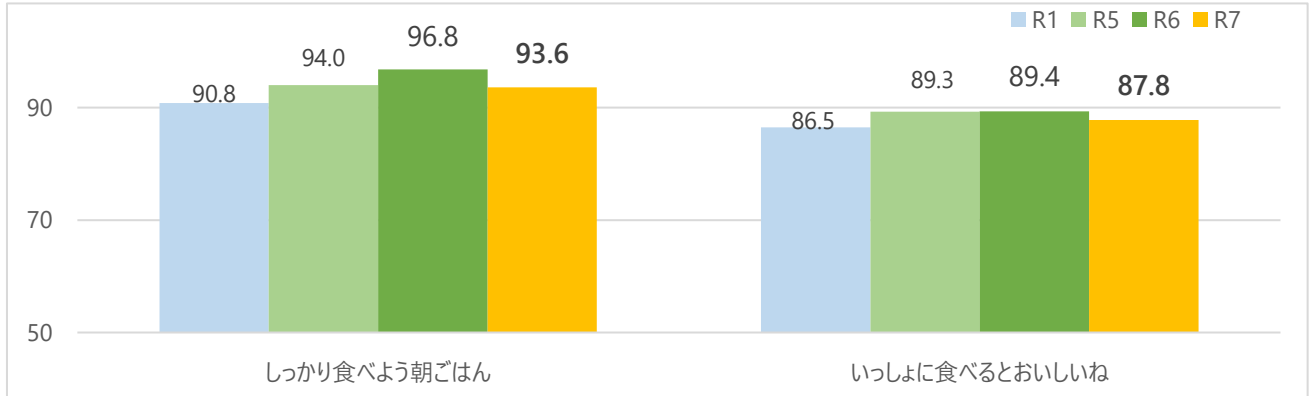
（２）活動テーマの取組状況

テーマ１「しっかり食べよう朝ごはん（早寝・早起き・朝ごはん）」の啓発状況

- ・ あさごはんカードなどの活用もあり、９割以上の施設で啓発されていた。

テーマ２「いっしょに食べるとおいしいね（共食のすすめ）」の啓発状況

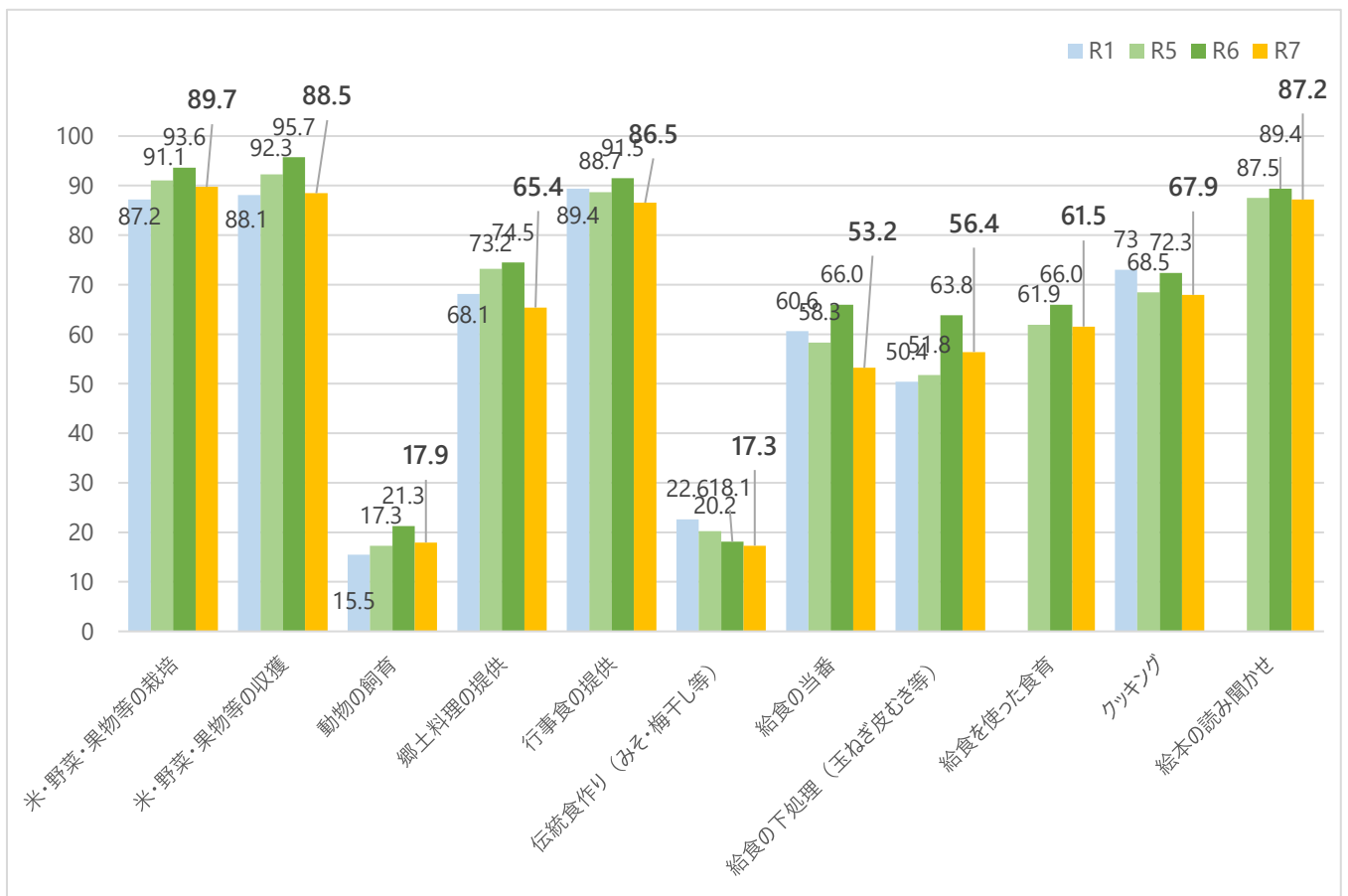
- ・ 共食については、９割弱の施設が実施している状況である。



（３）こどもへの食育活動で実施しているもの

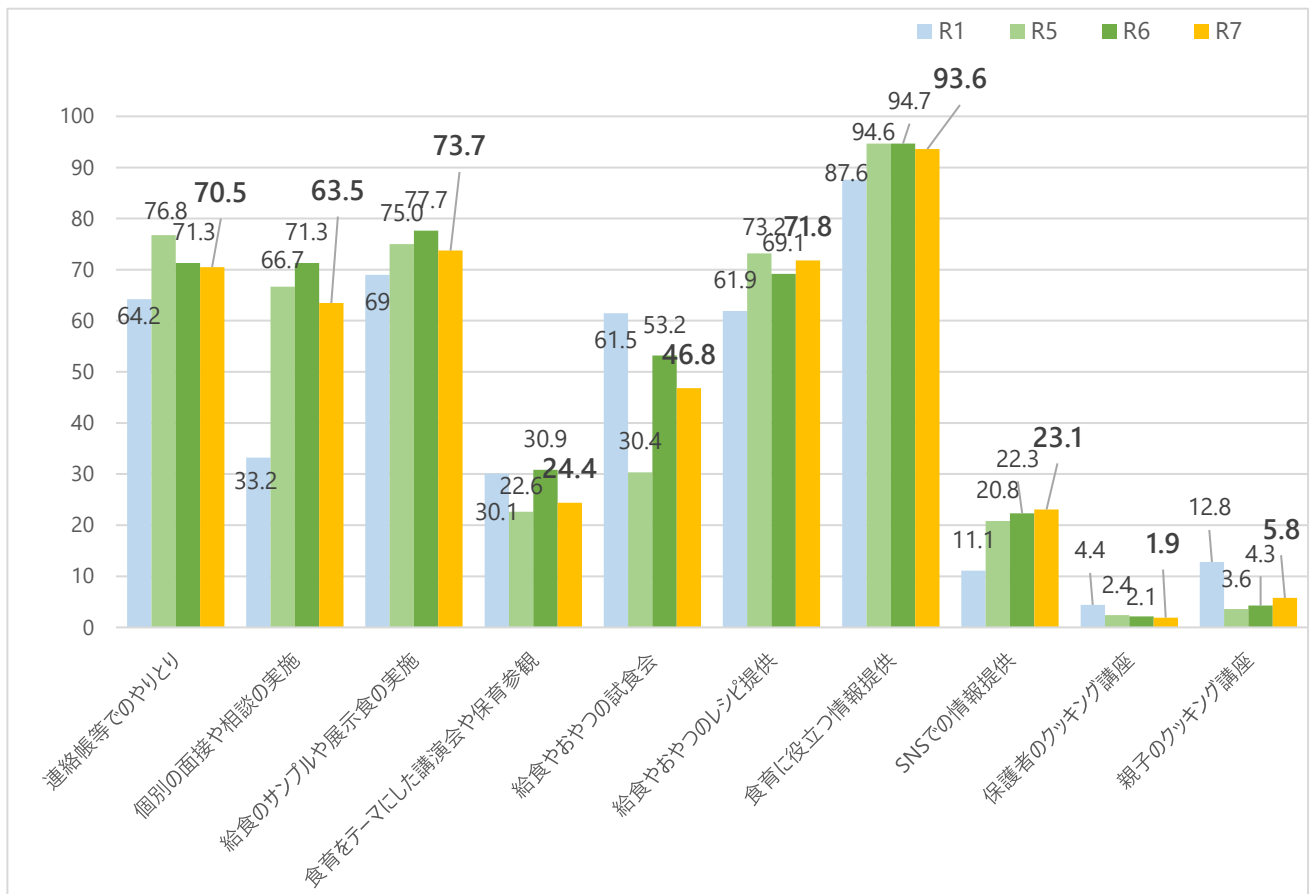
- ・ こどもへの食育で実施率の高いものは、①米・野菜・果物の栽培、②米・野菜・果物の収穫、③絵本の読み聞かせの順であった。

- ・ 行事食の提供、伝統食作り、クッキングなど令和元年度の水準に達していない項目もあった。

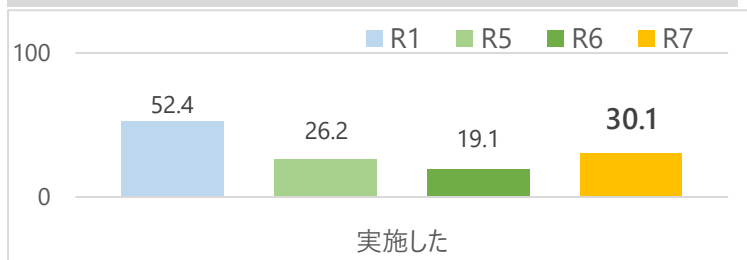


（４）食を通した保護者への支援として実施しているもの

- ・ 保護者への支援として実施率の高いものは、①お便り等での食育情報提供、②給食のサンプル展示、③給食やおやつレシピ提供の順であった。
- ・ 上記３項目など令和５年度以降の結果が、令和元年度の水準以上となっている取組が多くなった。コロナ禍以前の取組を継続して実施していることが考えられる。

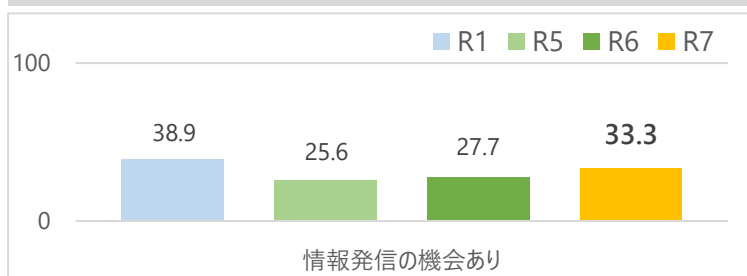


（５）地域や団体等と連携した食育活動の実施の有無



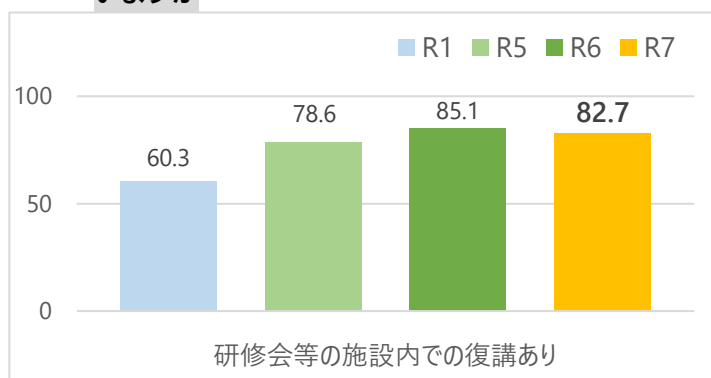
・実施率はコロナ禍以前の実施率には至っていない状況ではあるものの、増加傾向である。

（６）地域の未就園児童とその保護者への食育の実施や情報発信の機会の有無



・コロナ禍の影響から低下していたが、増加傾向である。

(7) 食育推進ネットワークの地域研修会、全体研修会の内容について、施設内で復講を行っていますか



・令和6年度以降80%以上の施設が取り組まれている。食育は、教育・保育と一緒に進めるものであるため、施設内での情報共有は今後も進めていただきたい。

4 考 察

- 1 「楽しく食べるこどもに」成長していくための5つの目標については、「食事づくりや準備に関わる」以外の目標は96%以上の実施率で、継続して取り組まれてことが窺える。
- 2 活動テーマ、「しっかり食べよう朝ごはん」の啓発については、家庭へ繰り返し伝え定着を図ることが重要である。あさごはんカードなどを活用いただき、生活リズムを整えることの重要性を引き続き継続して啓発していくことが重要である。
- 3 活動テーマ、「いっしょに食べるとおいしいね（共食のすすめ）」の取組については、共食の実施が難しかったコロナ禍を経て、改めて「共食」の重要性について継続して情報提供していく必要性を感じる。
- 4 郷土料理や行事食は食文化を伝えるうえで重要であり、持続可能な食に貢献することが期待されている。現在、横ばい傾向にあるのでさらなる強化をしていく必要を感じる。